

週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月12日(土)

《相手の立場を配慮する - どうすることが相手に一番よい道になるのか -》

この話は、アシジの聖フランシスコの物語なので、皆様もきっとご存知だと思います。

ある時、聖フランシスコが、弟子達と一緒に一週間以上断食の祈りをしたことがありました。断食をすれば、当然お腹がすきますよね。断食を始めて一週間くらい経った時、聖フランシスコが弟子たちと一緒に市場を通りました。その時弟子達の一人が、無意識のうちに、お店でスープを飲んでいる人の器を取り、飲んでしまいました。そして、ある程度スープがお腹に入ってから「今は断食の祈りの最中なのに、何ということをしてしまったのか。」と気づきます。そして周りを見回すと、仲間達は冷たい、軽蔑の視線で自分を見ている。この弟子は、頭をうなだれて「私はこれでこの先生の弟子にはなれないのだろう。」と思い、がっかりします。その時、聖フランシスコは、その弟子が置いた器を手に取り、「ああ、私もお腹がすいた。」と言いながら、少しだけ器に残っているスープを自分でも飲みました。そして、「みんな疲れているよだから断食はもう十分だろう。終わりにしよう。」と言いました。そういう逸話が残っています。

今日の福音(マルコ8:1-10)のイエス様の御心も同じではないかと思いました。人を先導するのは、家庭の中ではお父さんやお母さんの役割でしょう。しかし、自分についてくる人がいる、ということならば、ほとんど人がそういう指導者の立場になるでしょう。指導者として人の前に立つ時、どのようなやり方、どのような振る舞い、どのような考え方をするのが、立派で、正しく、ふさわしいのでしょうか。「それは間違えている」と責めるばかりの人もあるし、一つ一つ全部自分が関わろうとする人もいるでしょう。そして、「これは罪だ。これは罪ではない。」と判断し、よいものは褒め、悪いものは責めようとする態度の人もあるでしょう。しかしイエス様と聖フランシスコが見せたのは、「どのようにすればその人に一番良い道を歩ませることができるのか。」という完全な配慮でした。たぶん、聖フランシスコはとまどったと思います。自分の弟子が、とんでもないことをしてしまったのです。どうすればよいか、一瞬迷ったでしょう。しかし、がっかりしている弟子、その弟子を冷たい視線で見ている仲間達を見て、それぞれの感情を速く察知し、先生としてすべきではないことをしました。

「私もお腹がすいた。」と言って、その弟子と同じことをしたのです。これが配慮ではないかと思いません。このような配慮が出来るかどうかによって、聖人になるかどうかが決まるのではないのでしょうか。

このような話を聞くと、ほとんどの人は恥ずかしくなると思います。『愛』という言葉を叫びながら、実際には相手に対してどのような配慮をしながら生きてきたのでしょうか。考えてみると、やはり私達はわがままです。いつも自分が中心で、自分にとって損になりそうになったら、いくらよい仕事でも、否定的にしてしまう癖があります。それを認めましょう。

今日の福音で、弟子達は、ごく当たり前の反応を見せました。大勢の人々に何か食べさせるように

と言うイエス様に、「人里離れたこんなところで、4000 人を超える人々をどのように食べさせればよいのですか。」と言います。当たり前な考え方でしょう。しかし、もし弟子たちにもっと深くイエス様の御心を図ろうとする気持ちがあれば、待つはずです。「先生には何か考えがあるのだろう。」と思いながら、待つのが正しい態度だったのでしょうか。しかし、自分の秤の基準で、すぐに先生を責めようとした弟子たちの弱さ。これは私たちの弱さと同じではないかと反省しています。

ありがとうございました。